



市民の宝を

火災から守る

1月24日、文化財防火デー（1月26日）を前に市消防本部が下新入の法華寺観音堂で消防訓練を実施しました。観音堂にある木造十一面観音坐像は、平成25年に県指定文化財となったものです。

今回は観音堂の北側の竹林で出火し、延焼の恐れがあるという想定のもと行われました。訓練には消防署員ら14人と消防車2台が出勤し、迅速な作業で火元への一斉放水を行いました。訓練後、岸本消防長は「文化財は、後世に残していかなければならない。地域の皆さんと協力して守ってきたい」と述べました。



遠賀川流域の

リーダー集う

1月26日、宮若市宮田文化センターで第7回「遠賀川流域リーダーサミット」が開催されました。国（国土交通省）や県、遠賀川流域のおよそ20市町村の首長が集まり、地域の川づくりに取り組む河川団体・川について学習した子どもたちが活動の報告を行いました。



パネリストとして参加した大塚市長は、平成30年の水害体験から見えた防災・減災の取り組みや遠賀川を活かしたまちづくりを紹介。最後に「遠賀川流域宣言」を行い、各団体のさらなる団結を誓いました。

歌会始に入選

感動体験を短歌に

1月29日、皇居・宮殿で行われた「歌会始の儀」（1月16日）で、歌を詠み上げられた石井信男さん（65）が市庁舎を訪れて入選報告を行いました。石井さんは、小学生のころに天体望遠鏡で土星の環を見た感動を思い出し「息を止め望遠鏡で 本物の 土星の環を見た 夏の校庭」という短歌で応募。1万6000人超（一般の部）の応募者の中から入選者10人の1人に選ばれました。

市長が「市にとっても名誉なこと。これからもチャレンジを」と話すと、石井さんは「また歌会始にも選ばれるよう頑張りたい」と答えました。



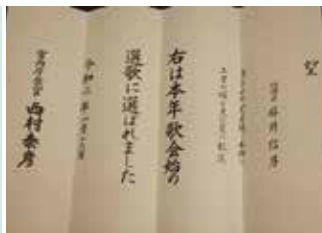
マイ茶碗で

児童らがお茶会



1月31日、直方歳時館でお茶会が催されました。子どもたちに高取焼の魅力を伝えようと「古高取を伝える会」が実施。直方西小6年生22人が自作した茶碗で参加し、自ら茶せんで茶を点てました。子どもたちは、お茶会体験だけでなく、お辞儀の仕方や敷居・畳の縁を踏まないなど、礼儀作法も学びました。

参加した光安竜希さん（11）は「足がしびれたけれど、作法を覚えてよかった。お茶や和菓子がいしかった」と話しました。



豆まきで火の用心



2月3日、市消防本部の若手職員らが節分の豆まきを大和幼稚園で行いました。今年は、有志の職員約18人が参加。この取り組みは毎年恒例で、ボランティアで職員が鬼にふんし、節分の日前後に市内の幼稚園や保育園を訪問します。

大和幼稚園では、鬼が登場すると約170人の園児たちは大騒ぎ。「鬼は外、福は内」と豆を投げ、鬼を退治しました。その後、鬼の正体をあかし、職員が「火事の原因となる火遊びはしないように」と呼びかけると、園児たちは「はい」と元気よく返事をしました。

あなたと直方の未来を

第6次
直方市総合計画
ニュース

ゲーム感覚で

SDGsを体験

2月2日、市民ワークショップ「SDGsカードゲームでまちづくり」を中央公民館で開催しました。SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連で合意された国際社会の共通目標のこと。市でも令和3年度から始まる市総合計画で、SDGsを取り入れたまちづくりを行っていきます。ワークショップには、高校生から70代まで幅広い世代約40人が参加し、ゲーム感覚でSDGsを楽しんでくれたようでした。



新国富指標を

分かりやすく

2月10日、市庁舎で九州大学都市研究センター長・馬奈木俊介さんによる「新国富指標に関する講演会」を開催。市民に「新国富指標」を活用したまちづくりを知ってもらおうと、市が主催したもので、市民ら約80人が参加しました。「新国富指標」とはGDP（国内総生産）では測れない、自然や教育環境の豊かさなどを金銭的な価値に換算する物差しです。市では、この指標を活用して、市総合計画を策定する予定です。講演会では、直方市での「新国富指標」の活用方法などを紹介。馬奈木さんは「行政だけでは進まない。今後、市民の皆さんに関わってほしい」と語りました。参加した石田群さん（21）は「まちづくりは市民の協力が不可欠だと思うので、今後どう市民を巻き込んでいくのが大切だと感じた」と話しました。

市のホームページでは、この他の話題も公開しています。

